

ホンモロコの西の湖における産卵盛期の産卵数と産卵基体

藤岡康弘・大植伸之

1. 目 的

ホンモロコは、琵琶湖岸や内湖および内湖の流入河川などで産卵するが、これらの中で内湖における産卵数が比較的多く、内湖が重要な産卵場となっている。琵琶湖の最大の内湖である西の湖では、ホンモロコの産卵状況を定点観察してきたが、西の湖全体としてのどの程度産卵があるのかは調査されていないことから、産卵盛期における西の湖本体の産卵数と産卵基体の調査を実施した。

2. 方 法

西の湖におけるホンモロコの産卵は、定点観測結果から5月中旬から6月中旬が盛期であることが判明している。そこで2018年5月25日の快晴無風状態の日を選んで現地調査を実施した。調査は、1人が小型船を操船し、もう1人が舳先に乗って水路を除く西の湖の本湖周辺を岸に沿って1周し、ホンモロコ卵を観察し計数した。一般に、ホンモロコの産卵場は湖岸沿いにパッチ状に分布するため、先ず卵が連続して産まれている場所（産卵箇所）の長さを計測した。次にその産卵場所における面積当たりの平均卵数から産卵数を計算した。さらに、その場所の卵が付着している産卵基体を記録した。なお、観察した卵の多くは、観察日の当日を含む数日以内に産卵されたものと思われ、当日も産卵行動が各所で観察できた。

3. 結 果

ホンモロコ卵は西の湖の本湖の周辺すべてで観察され、産卵場所の方位がどちらかに偏ることは無かった。産着卵の連続した産卵箇所数は224箇所、その延長距離は452.5mに及んでおり、総産卵数は13,278,700粒であった（表1）。産卵箇所の平均長は2.02mで、平均産卵数は59,000粒であった。

卵は主にヨシの基部を中心に根や茎に付着していた（写真1）。産卵箇所の79.0%がヨシに、17.4%がヨシとマコモの混成群落であり（写真2）、マコモ単独では3.1%であった（表2）。また、総産卵数の71.3%がヨシで、27.9%がヨシとマコモの混成群落で、マコモ単独は0.4%であった。

表 1. 西の湖におけるホンモロコ産卵箇所・産卵長および産卵数

産卵基体	産卵箇所数	長さ(m)	産卵数
ヨシ	177	273.2	9,465,700
マコモ	7	5.8	53,000
ヨシ+マコモ	39	173	3,710,000
浮きヨシ株	1	0.5	50,000
合計	224	452.5	13,278,700

* 調査実施日：2018年5月25日

表 2. 産卵の割合(%)

基体	産卵箇所数	長さ(m)	産卵数
ヨシ	79.02	60.38	71.28
マコモ	3.13	1.28	0.40
ヨシ+マコモ	17.41	38.23	27.94
浮きヨシ株	0.45	0.11	0.38



写真1. 西の湖のホンモロコ卵の付着したヨシ基部



写真2. ホンモロコ卵が産卵されたヨシとマコモの混成群落